

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL. 025-234-6781
~6783



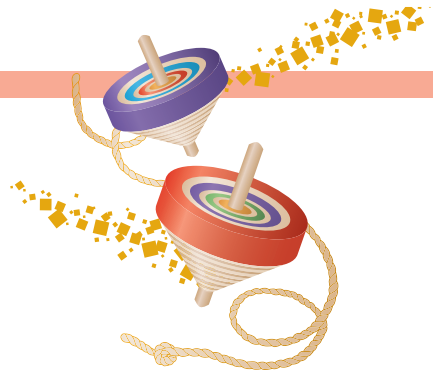
(にいがた畜産女子会 防疫演習 平成30年11月14日)

目次

- ◆ 会長挨拶 (2)
- ◆ 特集：新年特別企画・声のコーナー拡大版！
「私たちの目標に向かって、今年も頑張ります！」
☆「今年は更に充実した経営を！牛と夢と私」
酪農経営：江部 広大 (3)
☆「おいしい牛肉を届けたい！技術改善を頑張ります！」
肉用牛経営：三田 美明 (3)
☆「目標に向かって、今年も一歩ずつ前進！」
養豚経営：西本 信弘 (4)
☆「今年はチャレンジの年に！私の養鶏の仕事」
養鶏経営：石津 邦幸 (4)
☆「人のための一年にしたい！」
畜産協会：真保 春紀 (5)
- ◆ 法制化マルキンについて (5)
- ◆ 畜産経営セミナー・優秀畜産表彰の紹介 (6)
- ◆ にいがた畜産女子会の活動紹介 (6)
- ◆ みんなで衛って、病原体の侵入を防ぎましょう!!
ー平成30年度衛生指導課事業進捗状況ー (7)
- ◆ 安心ブランド認定農場認定式のお知らせ (7)
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより (8)
糸魚川市：社会福祉法人 奴奈川福祉会ワークセンターにしうみ
宝剣 邦治 (8)
- ◆ ちくさん女子の窓 (8)
- ◆ (公社)中央畜産会からのお知らせ (8)
- ◆ 編集後記 (8)



年頭のご挨拶



公益社団法人新潟県畜産協会

会長 今井長司

明けましておめでとうございます。

平成31年の新春を迎えるに当たり、一言、ご挨拶を申し上げます。

昨年は、1月中旬に新潟市内でも1昼夜で80cmを超える大雪に見舞われ、年明け早々に市内の道路網が混乱しましたが、全国的にも自然災害が猛威を振るった年でありました。特に7月の西日本豪雨や9月の北海道胆振東部地震は甚大な被害をもたらしましたし、相次ぐ台風の襲来や40℃超えを記録する異常猛暑など、国内各地で幾度となく気象災害が頻発しました。被災された地域が一日も早く復旧・復興を成し、希望に満ちた年となることを心から願うものであります。

さて、畜産を取り巻く最も大きな出来事は、暮れに発効したTPPであり協定発効と同時に「畜産経営の安定に関する法律」に基づきスタートする「肉用牛肥育経営安定交付金」（法制化牛マルキン）であります。

TPP参加11か国のうち、牛肉や豚肉、乳製品等畜産物の貿易額が大きいオーストラリア、カナダ、メキシコ、ニュージーランドなどの国内事務手続きが終了したことにより協定発効となりましたが、同時に牛マルキンも法律に基づく交付金制度になりましたので、当協会としましては肉用牛肥育経営の皆様や関係団体に出向き説明会を開くなど、法律事務への移行準備に努めたところであります。

TPPに引き続き欧州連合とのEPA（経済連携協定）が2月に発効し、自由貿易の波が

一段と高まる年を迎えました。

このような社会環境の一方、国内における豚コレラの確認や隣国におけるアフリカ豚コレラのまん延など、畜産の生産現場においては日ごろからの家畜衛生対策、防疫対策の一層の強化が求められる状況にあります。

当協会におきましても県機関や関係団体と連携のうえ生産者の方と防疫演習に取り組むなど、重篤な家畜伝染病発生の未然防止に努めているところであります。

県内の畜産農場、農家の減少は続いておりますが、昨年はJA佐渡の大型和牛繁殖支援施設（CBS）が竣工した他、一昨年には佐渡地域をはじめ県内各地で和牛繁殖の新規就農や増頭などに取り組む方が増えた結果、肉用子牛の生産頭数が増加傾向に転じております。

また、養豚経営ではクラスター事業によって飼養環境の整った新たな施設を整備したことにより、昨年夏の猛暑も乗り切り、出荷頭数の増頭を計画する経営体もあります。

さらには、当協会の経営診断事業等の対象としている経営体の世代交代も進んできました。

これら経営体の方々と本県畜産の振興を図りながら、引き続き、安全安心な県産畜産物の供給に努めて参る所存であります。

最後に、畜産経営者の皆様、会員の皆様のみますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

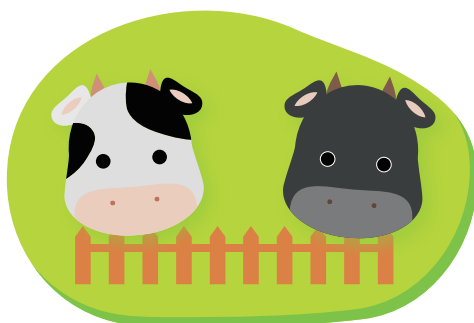
特集：新年特別企画・声のコーナー拡大版！

「私たちの目標に向かって、今年もがんばります！」



酪農経営

柏崎市東条
江部 広大



肉用牛経営

村上市長政
三田 美明



『今年は更に充実した経営を！ 牛と夢と私』

就農して10年余りが過ぎて、今思えばあっという間でした。

就農して柏崎の酪農ヘルパーと家業の両立からスタートしました。ここでやっていた酪農ヘルパーが多くのスキルを身につけるベースとなり、搾乳技術、給餌方法、何一つとっても各農家でのこだわりがあり、良いところは「自分の家でもやってみよう！」と勉強させられるものばかりでした。また、農業大学校で家畜人工授精師の免許を取得していたため、発情している牛がいれば、他の農家さんにも人工授精をすることがありました。

就農した頃の我が家の経営は、経産牛1頭当たりの年間乳量が平均7,000kgと低迷した牛群で、繁殖成績もあまり良くなかったため、何とかしなければいけないと思い、特に繁殖成績の向上に力を入れました。当時は、発情という発情は全て人工授精をするよう心掛けました。すると、2年後には乳量が約10,000kgの牛群にまで向上し、この時に繁殖の大切さをとても痛感しました。ただ、分娩の立ち上がりの悪さから、第四胃変異が多発したため、次に分娩前後の給餌内容を大きく改善した結果、年間6～7頭出ている第四胃変異がほぼ無くなり、経営も安定してきました。最近では、ほとんど獣医さんに診療してもらうことも無く、牛群は乳量10,700kg、分娩間隔13.4ヵ月と満足のいく成績となっています。今後は更に牛群レベルを追究するとともに、ホルスタイン共進会でも良い成績が残せるよう改良にも力を入れていきたいと思えます。

今年は、クリーンミルク生産農場の取得や酪農教育ファームの取得も視野に入れて、更に充実した酪農経営にしていきたいと考えています。また、今までたくさんの酪農家さんを視察させていただいたことを契機に、ジェラートやチーズなどの食品加工にも妻と子ども興味を持ちましたので、将来は6次産業化にも挑戦してみたいと考えております。

『おいしい牛肉を届けたい！ 今年も技術改善を頑張ります！』

私の家では、肥育牛100頭、繁殖牛30頭を飼育する一部一貫経営を営んでいます。

幼い頃から牛の手伝いをしていましたが、中学生や高校生になると「牛飼いはなりたくない」と思うようになりました。

高校を卒業して、将来何になりたいということもなく「県外にでてみようかな」と思うようになり、父の勧めもあって東京のお肉屋さんへと修業に出ました。これが私の人生の転機となりました。

修業先のお肉屋さん、都内の有名店だったため同世代の人達が全国から修業に訪れ、皆仕事を身につけて帰ろうとしているのでやる気と情熱に満ちあふれていました。それが私にとって刺激となり「いつか自分でお店を出したい」という夢を抱くようになりました。まだ若かったので、ふわふわとした夢を追いかけてながら朝から晩まで仕事をし、仕事が終わってから包丁の使い方の練習をしたりと8年間一心不乱に働きました。

今から10年ほど前に帰郷し、念願のステーキ店を新潟市西区で開店しました。最初の頃は、売り上げが伸びずに苦労しましたが、4～5年経つと店も軌道に乗りはじめました。

店が忙しくなるにつれ、子供や家族との時間が少なくなり、「このままでいいの？」と疑問に思うようになりました。売り上げは伸びて生活も楽になってるはずなのですが、家族との時間がとれず、土日でも当たり前のように仕事をしていました。悩んだ末、3年前に馴染みのお客様との別れを惜しみつつ店を閉め、家の後継者として働くようになりました。

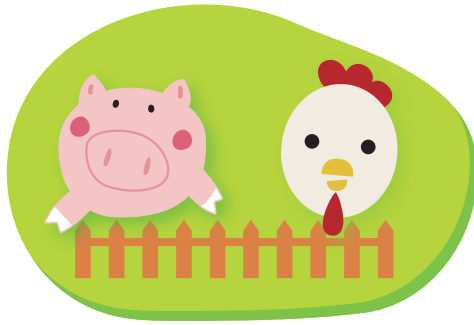
牛の仕事はまだまだ修業中です。将来の目標として200頭、300頭規模拡大!!のような世界観もみてみたいのですが、今は地に足を付け、更なる自給飼料の確保と一貫経営への移行、そしてあまり値段の付かない、A3等級や経産牛の販路拡大を進めていきたいと思えます。

今年は繁殖成績の向上や子牛の事故防止策として、子牛の早期離乳などにも取り組んでいきたいと思えます。



養豚経営

十日町市姿
西本 信弘



養鶏経営

新潟市秋葉区古田
石津 邦幸



『目標に向かって、今年も一歩ずつ前進!』

義父が営む養豚農場に勤めて10年目を迎えようとしています。前職は自動車整備の仕事をしていました。はじめは何も分からず苦労することがたくさんありましたが、先輩方のご指導や同じ銘柄豚を育てている若手仲間の支えもあり、今では農場長として仕事をする事ができています。

私が育てている銘柄豚は「妻有ポーク」といいます。昭和60年に旧川西町、十日町市、津南町の養豚農家が集まり、妻有畜産株式会社が設立されました。飼料の共同購入、共同出荷、生産技術の相互研鑽、隔離豚舎を造り地域ぐるみでの防疫体制と衛生管理の取り組みを行っています。妻有ポークは管内の小中学校の給食に採用されており、我が家の子供達も大好きな食材のひとつです。これからも地域に支持される安全・安心で美味しい豚肉を生産していきたいと思えます。

こうした取り組みが評価され、平成18年度に日本農業賞大賞を受賞することができました。また、平成25年には全国8地域の豚肉を1年間食べ比べて評価する「第1回丸の内オリッピッグ」にて頂点に立つこともできました。

また、若手グループの活動として、十日町市、津南町の若手養豚農家で構成される「ぶたのしっぽ」に参加しています。20代~40代の後継者から新規雇用従業員を含めた集まりで、年3~4回の勉強会、懇親会が開催され、交流を深めています。勉強会では防疫などについての講演会が行われており、大変勉強になっています。

そんな妻有ポークを育てる私の農場ですが、更なる成績・生産性向上を目指し、昨年たくさんの方のご協力をいただき、クラスター事業で豚舎を新築することができました。昨年3月に工事を着工し、9月末に完成し、10月末より稼働しています。ご理解とご支援をいただいた皆様のご期待に添えるよう義父を筆頭に従業員一同で日々がんばっており、また、今後の活動としてベンチマーキングに参加する予定です。

今年には更に心機一転、好成績農場の取り組みを参考にし、自己や従業員の意識を高めながら一歩ずつ前進していきたいと思っています。

『今年はチャレンジの年に! 私の養鶏の仕事』

私は、会社員として6年間勤めていましたが、平成29年10月頃から実家の家業を継ぎ畜産農家として現在まで従事してきました。

実家の家業は祖父が始めた養鶏の仕事で卵の生産・販売が主です。私で三代目になります。当初、祖父が一般的な市場価格で卵を販売していたのですが、現在では父が平飼という形で卵に付加価値を付け、生産しております。

昨年1年間は両親に仕事のやり方を教わりながら畜産や農家の仕事を行ってきました。時には、普及センターの開催する農作業機械や簿記の講習会に参加しました。おかげで農作業機械の危険性やメンテナンス方法、経費に対する認識を持つことができました。

家畜飼料について私の養鶏場では、遺伝子組み換えを行っていない飼料やEM菌を使った発酵飼料、すりごま、カキ殻等こだわって飼料を配合しております。私は実家で販売している卵は高い卵だと感じておりましたが、平飼いで鶏を多く飼うことができないこと、高額の飼料費がかかっていることを知り、妥当な値段だと思えるようになりました。

平飼いで鶏を飼っていると、鶏がどのような生活をしているか見ることができます。飼育場に放すと敷地内を隅から隅へと歩き回り、絶え間なく鳴き、コミュニケーションをとります。時には地面の砂で砂浴びをします。体調が悪い鶏はトサカが委縮したり汚れたりしてきます。ですので、鶏に必要な水、エサ、空気、地面には特に注意して観察しております。

これからの夢や新年の抱負ですが、石津養鶏場では、これから直売所を建設して卵やイチジク、野菜等の直売を計画しております。対面販売することで、お客様からの声を聞き、より良い品質の物をお届けできたらと考えております。

これから私は、親から譲り受けた「良いもの」をそのままにしながら、さらにより良くするために直売所の開設等、様々なチャレンジをしていきますので、お客様には、畜産や農業について興味をもってもらえると思います。



(公社) 新潟県畜産協会
業務課 技師

真保 春紀

『人のための一年にしたい!』

皆様、あけましておめでとうございます!

4月の会報誌でご挨拶してから8ヶ月、畜産協会2年目を迎える真保です!

今回久しぶりに皆様にご挨拶できるということで、前回の自己紹介を読み返してみると…良いこと書いてあるような、コチコチに緊張しているような(笑)。

知識・経験の足りない自分が、畜産という専門的な世界でやっていけるのだろうか?

人見知りの自分が、初めて会う人たちと上手くコミュニケーションがとれるだろうか?

不安なことばかり考えて、とにかく失敗しないように、失礼の無いように、肩に力が入っていたことを思い出します。

知らないことだらけだった一年、見習いとしてあちらこちらへお邪魔させて頂きました。はじめの頃は(今でも?)失敗ばかり…。コンサルの中で、簡単な資料作成を任されても、人より余計に時間はかかる上に日付・数字を間違えるのは当たり前、牛についての基礎知識が無いために間違いに気がつくことが出来ず、できあがった資料はデタラメな仕上がりに…。いざ牛舎を訪問してみても、初めて見る「働いている」牛は大きい!人なつっこい!と感動して写真をたくさん撮ったところまでは良いですが、協会に戻って見直してみると写っているのは牛の顔写真ばかりで、資料作成に必要な施設の写真は一枚もなく、呆れた上司に写真を分けて貰うことに…。何のための資料なのか、何のための写真なのか、いつも考えていなくてはいけないのだと痛感しました。それでも上司や先輩、そして行く先々で出会う、優しくて時々ユニークな方達に支えて貰いながら一緒にお仕事してきた中で、こわばっていた肩の力は抜けてきたのかなと思います。「農家のためのコンサル、それを忘れないで欲しい」とのお言葉を協会に入って間もない頃、肉用牛農家の方に頂きました。2年目を迎え、肩の力は抜けても謙虚さは忘れず、皆様のお力となるべく努力致しますので、本年も宜しくお願いいたします。

法制化牛・豚マルキンスタート!!

平成30年12月30日のTPP発効に伴い、法制化した牛マルキン(肉用牛肥育経営安定交付金制度)・豚マルキン(肉豚経営安定交付金制度)が開始されました。これまでとの違いや変わらない部分は下記のとおりです。新たな制度をうまく活用して、経営の安定を図りましょう。

●これまでとの主な違いは何?

肉用牛肥育経営安定交付金制度について

- ・補填率が常に9割に!
- ・基金が不足した際の交付金減額はなしに!

肉豚経営安定交付金制度について

- ・補填率が9割に!
- ・抛出割合(生産者:国)が1:1から1:3に!
- ・負担金の納付時期が販売確定後から
確定前に。

★どちらも対策が拡充されました!

●これまでと変わらないのは何?

肉用牛肥育経営安定交付金制度について

- ・個体登録は全頭加入であること。
- ・対象肥育牛の飼養期間や肥育期間。
- ・その他おおまかな事務の流れ。

肉豚経営安定交付金制度について

- ・負担金納付先はこれまで通り機構へ。
- ・販売報告の提出期限等の流れ。
- ・その他おおまかな事務の流れ。

★ほとんどの事務はこれまでどおりです!



畜産経営セミナー・優秀畜産表彰 の開催報告

平成30年11月6日（火）、JA全農にいがた県本部大会議室において、「飼料用稲の最新の利用方法等について学び、自給飼料を取り入れた経営展開を強化する」ことを目的として畜産経営セミナーを開催しました。

講師に元山形大学農学部教授の吉田宣夫先生をお迎えし、自給飼料を取り入れた経営展開や給与方法等について、具体的な事例を踏まえた講演をいただき、多くの参加者から好評をいただく結果となりました。



講演する吉田宣夫先生

また、畜産経営セミナーの一環として、優れた経営実績を上げている畜産経営体等を発掘して表彰するとともに、その技術や経営手法等を広く県内に紹介して普及浸透を図ることを目的として優秀畜産表彰を開催し、江部広大さん（柏崎市・酪農経営）が優秀賞を受賞されました。

繁殖成績の改善と生乳生産の向上が図られたこと、機械化による労力軽減と生乳品質の改善及び地域との連携や県内外の酪農組織での積極的な活動、さらに将来的な規模拡大や6次産業化、法人化等も検討しており、更なる経営発展が期待されることが評価されました。



優秀畜産表彰受賞者 江部広大さん

防疫演習と東京の研修会に参加しました！ にいがた畜産女子会活動

●防疫演習

11月14日に、県中央家畜保健衛生所にて、「農場段階における防疫演習」を開催（主催：女子会、畜産協会、県畜産振興協議会）し、中央家保の職員の方々を講師に、机上演習では海外悪性伝染病（口蹄疫等）の発生子防と発生時の対応を、実地演習では消毒薬の作り方や車輛消毒の仕方を学びました。



講師の説明を聞く畜産女子たち。日常のちょっとした疑問など、たくさんの質問が出ました。

●東京の研修会

12月11日から2日間、女子会初の県外研修を開催しました。初日は中央畜産会の研修に参加し、女性の経営参画について学びました。2日目は東京食肉市場にて、牛・豚のセリや枝肉を見学し、JA全農ミートフーズ（株）と東京食肉市場（株）の担当者から、市場での取組等についての話を伺いました。

他県の畜産女子・関係者との交流や、普段見ることのない市場の現場など、刺激的な2日間でした。



研修会には全国から畜産女子が集まりました。



JA全農ミートフーズ(株)、東京食肉市場(株)の方々と記念撮影

みんなで衛って、病原体の侵入を防ぎましょう!!

～ 口蹄疫防疫演習を県内3か所で開催、県内PRRS清浄化養豚講演会も開催 ～

—— 平成30年度衛生指導課事業進捗状況 ——

● 県内3か所で口蹄疫を想定した防疫演習開催 (自衛防疫体制強化推進事業)

平成25年度から県内各地で生産者を対象とした「口蹄疫防疫演習」を実施してきました。今年度は、10月24日新発田地域農業振興協議会畜産部会（参加者48名）、11月7日新潟県酪農ヘルパー組合（参加者29名）、11月14日にいがた畜産女子会（参加者15名）の3か所で開催し、年々、参加者が増加しています。

その中でも今年度は畜産団体との共催で、酪農ヘルパー組合及びにいがた畜産女子会と共催で実施しました。それぞれ、管轄の家畜保健衛生所職員を講師に迎え、「口蹄疫の発生予防と発生時の対応」と題して、机上演習でのシミュレーションを体験し、実技では実際に車を用いて、消毒の作成方法や消毒方法を習得しました。

海外悪性伝染病はいつ侵入してもおかしくない状況です。参加者から「実際に発生することは避けたいが、知識として習得しておくことは重要で、ためになり、また、繰り返し研修を受講したい」と好評で、来年度も「万が一」に備えての防疫演習等実施予定です。



実習①：踏込消毒槽の消毒薬の作成方法と使用方法



実習②：車の消毒方法

● PRRS清浄化養豚講演会開催 (地域豚疾病緊急対策推進事業)

2年目の新潟県単独事業の「養豚農場PRRS撲滅対策事業」はワクチンを用いてPRRSを清浄化しようとする国内では初めての取組で、昨年度は1農場の清浄化が達成され、注目されているところです。

本年度前期事業が終了し、17農場36,482頭にワクチン接種が行われました。また、(公社)中央畜産会委託事業である「地域豚疾病緊急対策推進事業」ではPRRS清浄化養豚講演会を開催し、スワインエクステンション&コンサルティングの大竹聡先生から「PRRS清浄化に向けて」と題して講演を、下越家畜保健衛生所企画指導課村山副参事から「養豚農場PRRS清浄化支援事業」で県内のPRRSの浸潤状況と事業内容の説明を受けました。講演会参加者は生産者が多く、意欲と意識の高さがうかがわれ、来年度の清浄化達成が期待されます。



質問する参加者 (上)

講師の大竹聡先生 (左) と村山修吾先生 (右)



畜産安心ブランド認証式・研修会のお知らせ

と き：平成31年2月20日(水) 午後1時30分から

ところ：全農にいがた県本部ビル大会議室

内 容：畜産安心ブランド生産農場認証式

研修会：「安全・安心な畜産物を提供するための生産現場での取組と今後の展望について」

講 師：「農場HACCPとJGAP認証について」

(一般財団法人) 日本GAP協会

基準認証部(畜産グループ) マネージャー

朝日光久先生

申 込：当協会まで電話で 参加費：無料です

畜産安心ブランド生産農場だより

糸魚川市：社会福祉法人 奴奈川福祉会
ワークセンターにしうみ

宝剣 邦治

翡翠の故郷、糸魚川市内の当センターでは障害者就労支援の一環として、にいがた地鶏「翠鶏（みどり）」を年間1,000羽生産しています。飼育環境はアニマルウェルフェアを意識しながら、適正な飼育密度で止まり木や自動給餌機等を設置してストレスがないよう大事に育てています。「ジューシー・ヘルシー・美味しい」をキャッチフレーズとした鶏肉販売のほか、当センターの給食弁当事業及びパン製造事業の機能を活かした6次産業化に取り組み、糸魚川なりわいネットワーク（糸魚川市の農林水産商工業関係団体の集まり）と協力して翠鶏を使った商品開発を行っています。昨年より売り出した「パクチャー翡翠バーガー」は今年度の第8回全国ご当地バーガーグランプリにおいて第4位に入賞しました。また、今年度は新潟県の新しいお米「新之助」とのコラボ新商品「翠鶏と新之助の炊き込みご飯」を11月1日から発売して需要拡大に期待するとともに、お客様に良い品物だと買って頂けるよう日々努力しています。

私たちは今後もクリーンチキン生産農場として、安全・安心な翠鶏を糸魚川の特産品として生産し、地域団体と連携することで障害者福祉の推進にも繋げていくことを目標に取り組んでいきます。



ちくさん女子の窓

事務局：鈴木奈美子

にいがた畜産女子会で事務局を担当しております、鈴木と申します。協会では総務全般を担当しております。

女子会ができて早一年。ものづくり教室や協同組合まつりなど皆さんと様々なイベントに参加できて女子会がとても楽しいです。（事務局なのに楽しんでます。笑）

さて、皆さん今年の目標は立てましたか？

私事、ランニングが趣味でして、毎週仲間と練習をしております。毎年いくつかマラソン大会にも参加しています。

昨年はあまりタイムが奮わず悔しい思いをしたので、今年はたくさん練習をしてマラソン大会で納得のいくタイムを出したいです。

それが私の今年の目標です。→この会報誌で宣言しておけば、やらなければならないという意味も込めて宣言させていただきました（笑）。

もちろん仕事ももっと頑張らないとですが、女子会の皆さん、今年もよろしくお祈りします！



編集後記

あけましておめでとうございます。お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、26年ぶりの豚コレラの国内発生やTPPの発効、法制化マルキンのスタートといった大きな変化がありました。今年も、日EU・EPAの発効、新しい元号の始まり、消費税率の引き上げなどなど、変化の多い年になりそうです。

昨年は当協会も、県内初(?)の女性だけの防疫演習や女子職員の企画による協同組合まつりへの出展など、少し視点を「変化」させた取組に挑戦してみました。

皆様に良い変化をもたらせるよう頑張っていきますので、今年もよろしくお祈りします！（佐藤（紫）記）

（公社）中央畜産会からのお知らせ

約50作を公開中！
随時更新します

畜産現場の“今”を30分の番組にしました
がんばる！畜産！2



スマートフォンからはこちら▶
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

